

試験研究（事後）評価整理表

意見整理表3(事後評価)

試験研究機関名 林業研究センター

所管グループ 研究開発グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	外部評価アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期		
1	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	公益的機能増進を目的とした多様な森林造成・管理技術の開発	多様な広葉樹林の育成・管理技術の開発	広葉樹林の整備目標のうち、水土保全型(山地災害防止機能)および森林共生型(保健休養・文化機能)の二つについて、これらの機能を増進させる里山の整備技術を確立する。	伐採率と斜面型に応じた森林造成・保育管理法の効果を検討し、山地災害防止機能および保健休養機能・文化的機能の評価を行う。	平成11	平成16	B	・早期の計画終了は評価できる。伐採率の違いが「やすらぎ」等に与える影響の評価についてはその具体的影響や管理指針について提示が必要である。 ・里山に関する関心は高まっており、福島県でもこれを守らなければ未来の日本は緑がなくなると思われる。心に訴える環境、森にしずむ都市の実現。
2	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	希少樹種等の遺伝資源の確保	希少樹種を含む樹木の遺伝資源の保存に関する研究	・緑の文化財等の後継樹の収集、保存、増殖技術の開発。 ・優良形質木、特異形質木の収集・保存・増殖技術の開発。	緑の文化財や天然記念物、優良形質木、特異形質木を対象として、林分及び孤立木の現況、形態的・遺伝的情報の調査を行い、収集・保存・増殖技術を確立し、それらを保存・増殖する。	平成11	平成15	B	・森林資源維持の基本技術が整備されつつあると思うが、自然保全のポリシーとの対応により生かしていくとよい。
3	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	食用きのこの育種	ナメコ優良品種の選抜	産地間競争による価格低迷によりナメコ栽培者は厳しい経営環境におかれている。本県に有利な産地間競争を展開するため、消費者ニーズに適合した独自優良品種の選抜を行う。	多数の野生株から有用な遺伝形質を探索し、独自品種の育種母材として利用した。収量と収穫時期が市販菌と同等以上で形質に明瞭な区別性を有する株と、栽培安定株の作出を目的として育種を行った。	平成12	平成16	A	・新品種の知財化も行われ、商品力向上や普及が課題である。 ・消費者ニーズに合致した製品の開発ができたということであればOKですが、私の好みには合いません。
4	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	食用きのこ生産技術の開発	ナメコ菌の安定性向上技術の開発	ナメコ菌は、菌株の作出から生産者の栽培過程まで常に菌特性が変化する危険性を有するため、菌特性の安定化技術の確立を図る。	ナメコ菌の安定化を妨げる遺伝的要因、環境要因の解析、並びにそれらの知見を基にした菌の安定化技術を確立する。	平成11	平成15	B	・技術的には確立したと判断するが、発生不良に対する遺伝的要因との関係の解明の状況の進展を望む。 ・チェックのマニュアル化が完成し、農家への普及をいかに図るかが次の問題でしょうか。
5	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	食用きのこ生産技術の開発	菌根性きのこ安定生産技術の開発	ホンシメジ・マツタケ等菌根性きのこの林地及び空調施設での栽培方法を確立する。	感染菌及び培養菌系を使用して林地に接種する方法を開発した。人工合成培地により発生するホンシメジ菌株を11株選抜し、安価な栄養剤を探索した。	平成8	平成15	B	・ホンシメジについては普及と商品力向上が望まれる。マツタケについては栽培に至らなかった経緯を研究データとして保存するのがよい。 ・省力化、低コスト、農家へ還元できればよいと思います。
6	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	特用樹生産技術の確立	キリ変異拡大法の開発	本県のキリの遺伝的変異についてDNA分析した結果、変異の幅が狭いことが判明した。変異の幅の狭いことと若齢木の枯死現象が結びつくのか解明を行う。また、変異の幅を広げる手法を開発し、健全に育つ苗木の創出を行う。	・遺伝的に異なる系統間の交配、細胞選抜(カル、ス利用)により育種母材の作出を行い、在来種と新たな育種母材の変異幅の数値化を進める。 ・新たな育種母材と在来種の分根苗木の成育特性を比較し、若齢木の枯死現象を解明する。	平成11	平成15	B	・枯損原因の解明と変異幅を広げる手法の確立は大きな成果であるが、健全な苗木はその定義が少し曖昧である。 ・会津地方の特産品である桐関連商品の発展のために、枯れてしまうことの防止ができればよいですね。
7	22世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	県産材の材質特性把握	スギ、カラマツ、アカマツ等の強度試験	木材需要の主流である建築用構造材の強度特性を県内各地域ごとに調査し、材料性能の明確化と利用指針の確立を図ることにより、適正な品質をもつ県産材製品の安定的な供給に資する。	県内各地域ごとの建築用構造材を主体として曲げ、圧縮等の強度性能を把握するとともに、集成材ラミナの等級区分及び集成材の強度試験を行う。また、性能調査資料を作成して公表する。	平成12	平成16	B	・各種のデータを取得したと考えられるがその利用指針を整備するにおいては使用環境も考慮した科学的検討が必要である。
8	21世紀の豊かな森林、活力のある林業・木材産業づくり	県産針葉樹材の高付加価値化技術の開発	スギ人工乾燥技術の低コスト化に関する研究	乾燥が困難であるスギ心持ち柱材の乾燥経費縮減のため、人工乾燥前の仕分け工程の導入や天然乾燥との組み合わせの検討により、安定した品質の乾燥材生産体系を確立する。	天然乾燥を併用した人工乾燥及び難乾燥材の効率的な乾燥方法について検討するとともに、低コストの人工乾燥スケジュールを探り、スギ乾燥材の生産体系を確立する。	平成12	平成16	B	・スギ材の乾燥工程の効率化の手法が開発されたと思うが、具体的なコスト比較に至らなかったのは残念である。